



## openGion システム紹介

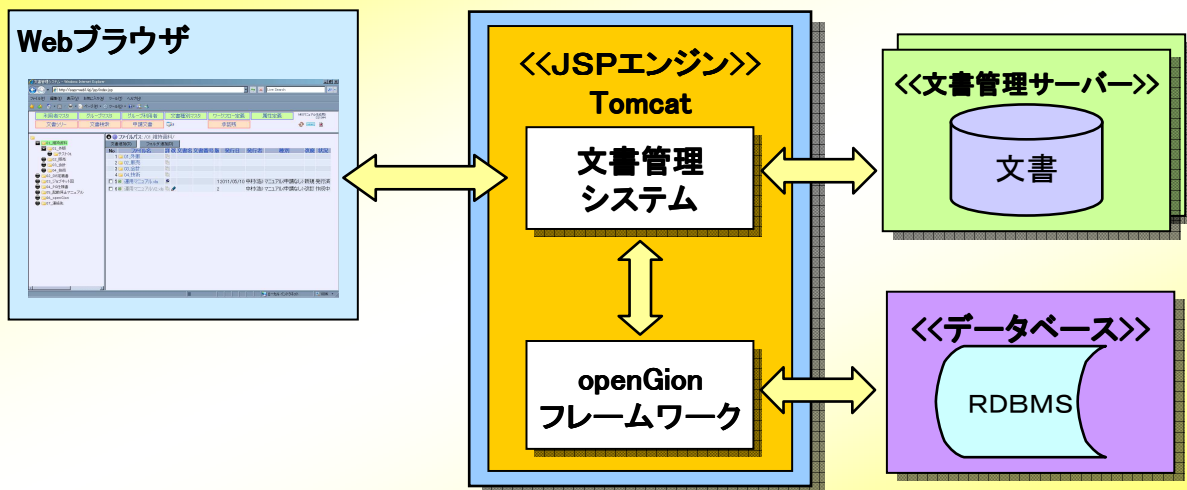
# 文書管理システム Ver1.0

## 企業内のあらゆる文書を一元的に管理

企業内には様々な文書が存在します。業務フローや開発規約といった規定文書から、設計書、見積書など、案件毎に作成される文書等々。文書管理システムを利用すれば、これら文書を一元的に管理することができます。また、変更履歴管理や承認ワークフローの機能を標準で備えているため、単なる置き場所管理に止まらず、文書のライフサイクルを管理することができます。このシステムはopenGionをベースとして開発されており、既存システムと連携や、カスタマイズも簡単に行うことができます。

- フォルダツリーにより直感的な操作性を実現
- 変更履歴や承認ワークフロー、アクセス権限設定が標準で可能
- ファイル取り込み機能により、直ぐに運用を開始することが可能

企業内のあらゆる文書を一元的に管理することができます。



- フォルダツリーをベースとした直感的な操作が可能
  - ▶ フォルダツリーをベースに、文書を直感的に検索、分類、整理することができます。
  - ▶ 各文書毎に定義された種別や属性情報、発行日など様々な条件で検索することができます。
  - ▶ 実装にAjaxを利用することで、大量の文書に対してもレスポンスよく表示することができます。
- 企業内での利用に必要な機能を予め用意
  - ▶ 変更履歴管理を自動化し、必要に応じて過去文書を参照することができます。
  - ▶ 文書の種別毎にワークフローを定義し、文書の変更に対する申請、承認を行うことができます。
  - ▶ フォルダ及び文書単位にアクセス権限を細かく設定することができます。
- 素早く柔軟な運用が可能
  - ▶ 既存のフォルダツリーを取り込み、直ぐに運用を開始することができます。
  - ▶ 全文検索ツールなど、他のドキュメントツールと容易に連携することができます。
  - ▶ openGionベースで開発されているため、他システムとの連携やカスタマイズも容易に可能です。

# 文書管理システム Ver1.0

## 多彩な標準機能



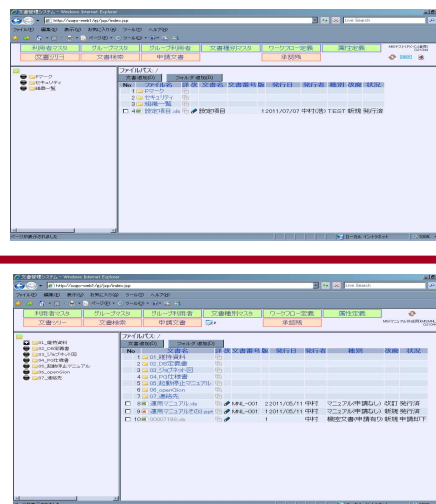
フォルダツリーをベースとした検索を初め、文書単位に定義した種別や属性情報、発行日、発行部門、発行者など様々な切り口で文書を検索することができます。また、各文書の変更履歴管理や、承認ワークフロー機能に加え、フォルダ、文書単位でのアクセス権限の設定など、企業内での利用に必要な機能が標準で用意されているため、すぐに運用を開始することができます。

## 複数部門での利用に対応

### 人事部門



### 資材部門



部門単位に各種マスタ、文書情報を独立して管理することが可能です。これにより各部門毎の運用独自性を確保しながら、全社のドキュメントを本システム1つで一元的に管理することができます。また、文書の保管場所をマスタ情報として定義することができますので、部門毎に保管場所を分けて管理する、という運用も行うことができます。

## Powered by openGion

開発のフレームワークとして、オープンソースWebアプリケーションフレーム「openGion」を採用しています。openGionは、部品化されたカスタムタグを中心としたフレームワークであり、システム構築に必要な様々な機能が標準で提供されています。文書管理システムでも、openGionの採用により、その実装を軽量化すると共に、簡易インストール対応、マルチDB、クロスブラウザの対応等を実現しています。また、openGion上で開発されたソースコードは可読性も高いため、機能追加も容易に行うことができます。



Powered by openGion

## 動作環境

### ◆ サーバー

- CPU : Xeon 2.0GHz以上(推奨)
- メモリー : 2048MB以上(推奨)
- HDD : 120GB以上(推奨)
- OS : Windows 2003/2008 Server、Linux(CentOS、Ubuntu)
- DB : ORACLE 10g/11g、MySQL 5.1、PostgreSQL 8.4
- その他 : J2SE 1.6 / tomcat 6.0

### ◆ クライアント

- CPU : PentiumM 1GHz以上(推奨)
- メモリー : 512MB以上(推奨)
- OS : WindowsXP/7、Linux(Fedora、Ubuntu)
- Webブラウザ : IE7.0/8.0/9.0、Firefox3.6
- その他 : 画面解像度 1024×768以上

※ Windowsは米国マイクロソフト社の登録商標です。  
※ その他の記載の商品名は一般に各社の商標、または登録商標です。  
※ 記載の内容は将来予告なく変更されることがあります。